

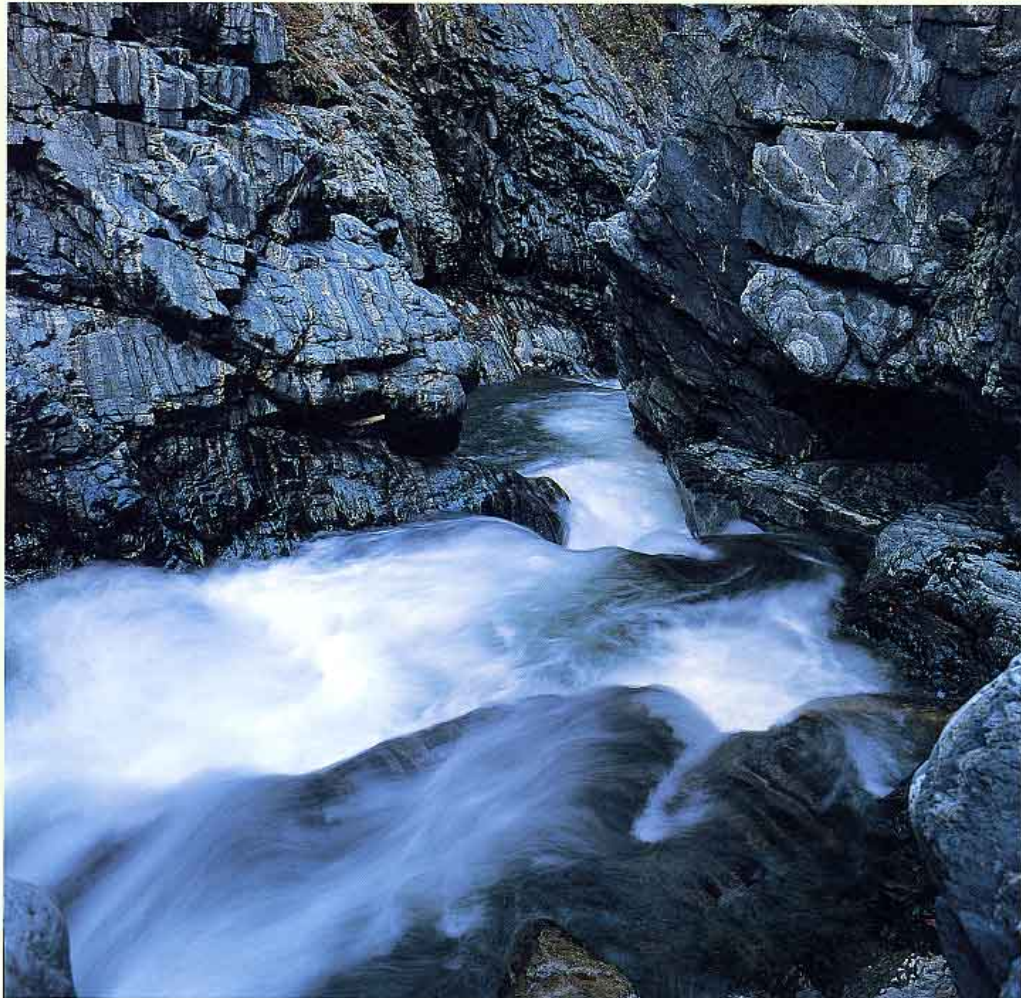
源流の四季

第3号 秋



Autumn

発行所 / 多摩川源流研究所 山梨県北都留郡小菅村4383
TEL・FAX 0428 (87) 7055
発行責任者 / 中村文明
協力 / 多摩川源流観察会
印刷 / (株)サンニチ印刷



丹波淡谷・牛全洞(撮影:中村文明)

Contents 目次

源流の秋.....	2・3
源流古道・水源林体験の旅.....	4・5
「源流・大菩薩探訪の旅」.....	6
この夏「源流体験教室」創設.....	7
「源流学校指導者養成講座」実施.....	8



水源の森と山野草に歓声

小菅村の民宿・大嶺荘に
宿泊したBコースの一行は、



天狗の頭、熊沢山、妙見の頭へと続く源流古道(8月2日 大菩薩)

8月4日朝8時に柳沢峠に
集結、準備体操を終えて笠
取小屋に向けて出発しました。
三窪高原にさしかかると、
紫のクガイソウやかわいい
ピンクのハクサンフウロ、
シモツケソウ、ソバナ、カ
ワラナデシコなどの山野草



Bコースの参加者(8月5日 笠取小屋)

が一行を出迎えてくれまし
た。

三窪高原のピークである
ハンゼノ頭(標高1681
m)からは、甲府盆地の彼
方に富士の姿がくっきりと
浮かび上がり、参加者は盛
んに歓声を上げていました。
この日の朝は天気が良く、
北岳、間ノ岳、農鳥岳の南
アルプスや源流の山々も見
渡すことが出来ました。

月光に浮かぶ大菩薩

倉掛山(標高1777m)に
正午に到着。山頂からは、樹間
を通して富士川水系笛吹川の広
瀬を望むことが出来ました。
参加者はここで昼食を食べ、元
気を取り戻して笠取小屋に向
けて歩き始め、午後4時20分に宿
泊地の笠取小屋につきました。
夕食を終えて天を仰ぐと、満
月が南の空を照らし、月光に大
菩薩の姿がくっきり浮かび上
がっていました。

5日の朝7時にBコースの一
行は将監峠に向けて出発しまし
た。参加者は、先ず分水嶺に向
かい、笠取山(標高1952m)
の山頂に立ち、最初の一滴の水



Cコースの参加者(8月7日 雲取山荘)

干、黒エンジュノ頭、源流域で
最も高い標高の唐松尾山(標高
2109m)を極め、幻想的な
原生林の中を歩いて将監峠に到
着しました。

源流の深さを実感

Cコース隊は、6日朝6時50
分に笠取小屋に向け将監小屋を
出発しました。あいにく周辺は
深い霧に覆われていて、展望は
ききませんでしたが、歩き始め
て30分すると鋭くえぐられた谷

に出会いました。竜噴谷の源頭
部でした。

中村所長は「みなさんの目の
前に展開する谷は、竜噴谷です。
人間に近寄りたいたい自然の厳し
さを教えるこの谷には、竜が宿
ると昔の人は信じたのでしょう。
この源流の広さ、水源の森の豊
かさを堪能してください」と参
加者に語りかけました。

徐々に標高も上がっていき、
吹き抜ける風も涼しさを増して
いきました。10時30分に、雄大
な自然を楽しめるハゲ岩に着き
ましたが、残念ながら濃い霧に
阻まれ眺望を楽しむことはでき
ませんでした。参加者は、恐る
恐る切り立った絶壁を覗き込み
途轍もなく深い谷にため息をつ
いていました。

最終日、7日朝7時30分雲取
山荘を出発し、雲取山(標高2
018m)に登りました。東京
の最高峰であるだけに、霧に覆
われて視界はききませんでしたが、参加者は山頂を極めた感慨
に耽っていました。

今回の旅では、宿泊した小菅
村の旅館・民宿を始め、介山荘、
笠取小屋、将監小屋、雲取山荘
のそれぞれが、参加者をもても
暖かく迎えていただき、参加者
は楽しい思い出をたくさん心に
刻むことができました。ご協力
ありがとうございました。

「源流・大菩薩探訪の旅を実施」

多摩川源流研究所は、6月23・24日にかけて、第一回「源流・大菩薩探訪の旅」を実施しました。この事業は、源流の自然の素晴らしさを体全体で実感してもらおうと、大菩薩から石丸峠をへて天狗の頭、牛ノ寝へと足を延ばすコースで、当日は流域の各地から34名が参加しました。

各地から34名参加

6月23日午後1時に奥多摩駅に集合した参加者は、車で鳩ノ



天狗の頭で記念撮影(6月24日)

東溪谷に出向き、見事な景観を楽しんだ後源流研究所を見学、ゆうゆうクラブの小泉春好会長からゆうゆうクラブの結成のいきさつや熊やイノシシの狐の楽しい体験談を聞きました。地元での交流会が終わると、グループ毎に旅館に分かれてヤマメやイワナの料理に舌鼓を打ちました。

24日は朝7時30分小菅を出発して、旅館のマイクロと小菅村のワゴン車で今川峠、柳沢峠をこえて嵐山市側から大菩薩峠に向かいました。9時30分、長兵衛小屋を立ち大菩薩峠、熊沢山、石丸峠を通過して天狗ノ頭、狼平と続く広々とした草原や美しい光景を心ゆくまで堪能していました。

昼食が終わると全員で記念撮影しました。撮影が終わると牛ノ寝に向かい、稜線に広がる見

事な水源の森をゆっくりと観察しながら、下山しました。この取り組みには、源流研究所から中村所長、佐藤事務局長、井村主任研究員、小菅村役場から奥秋総務課長、加藤教育課長、観光協会から広瀬会長、亀井事務局長、講師として都薬用植物園の吉沢さんがそれぞれ参加しました。

村の皆様へのエール送りたい

参加者から、たくさんのご感想が寄せられています。その一部を紹介します。

■宿の食事、満点。本ワサビのすり下ろし、手打ちそばは大感激。狐の体験談、面白かったです。

■健脚向きということで少々怖じ気づいていましたが、丁度力的に良くなかなか素晴らしい旅でした。もう少し、源流を体験できると良いですね。

■素晴らしい企画でまた是非参加したいです。多摩の源流、森林の保存に情熱をおかけになる

村の皆様には、参加者全員でエールを送りたい気持ちです。

■天狗ノ頭からバスまでの歩いた下りは絶対経験できない道だなど思いながら歩いていました。感激です。次回お会いできることを楽しみに貯金しておきます。

■鳥と植物等詳しいガイド付きでとても充実した山歩きでした。小菅村の皆様のご熱意が伝わって

川崎・八王子で

「源流写真展」開催

7月19日から8月19日まで川崎多摩区せせらぎ館にて、さ



多摩川源流写真展(9月4日 八王子市)

らに8月27日から9月4日まで八王子市役所と駅前前のクリエイトホールにて、せせらぎ館・八王子市の主催、多摩源流研究所の協力で、「源流写真展」がそれぞれ開催されました。

せせらぎ館では、「多摩川週刊」に開催され、たくさんの方々が会場を訪れました。

八王子市では、市役所ロビーに源流の写真が飾られると、市役所を訪れた多くの市民が写真を見入っていました。また、9月4日に市主催で開催された「下水道の日」シンポジウムの会場では、ギャラリィで「源流写真展」が開かれシンポジウム参加者が熱心に写真展を観賞していました。

ジンとしました。おらが村を愛する心がこんな楽しいイベントになったのですね。また参加させていただきます。

■源流はボトルに入れました。冷たくて美味しい。この旅への小菅村の方の力の入れようが理解できました。人生の楽しみが一つふえた感じがします。

この夏「源流体験教室」を創設



川崎・昭島の親子56名が
源流体験

源流アドベンチャープランに注目

多摩川源流研究所は、この夏、親子を対象にした「源流体験教室」を創設し、源流に直接触れる体験ゾーンを整備し、学校や子供会、親子で豊かな源流の自然を体験できる場所と機会を設けました。7月28日、川崎水辺の楽校の親子42名、昭島エコキッズの親子14名が源流を訪れ、初めて「源流体験教室」を体験しました。

ルメットに緊張感

当日源流研究所前広場に集まった参加者は、まずブルーのヘルメットを渡され、しっかりと自分の頭に装着して2班に分かれて源流に向かいました。白糸の流駐車場で記念写真



のぞき淵で体験学習（7月28日）

を撮りいよいよ体験コースに足を踏み入れました。研究所のスタッフからこの一帯は地元の人々も踏み荒らすことがない大切な場所である、苔のひとつひとつにも愛情を持って扱ってほしいとの注意を受け、緊張感を持って溪谷へ下っていきました。

経験が自信へ

清らかな流れに沿って歩くところを渡渉する場所に着きました。スタッフから、「川の流れ、石の配置、水深、水量などをよく観察しどこが一番安全なのかを考えながら自分の責任で渡りなさい」とのアドバイスに従って足が滑ってバランスを崩しながらも子供達は無事に渡りきりました。一回川を渡るとその経験が自信となり、二度目からは緊張感もとれていきました。

源流のメッセージに耳をすます

深い谷に差し掛かると、源流の観察会が始まりました。源流研究所のスタッフは「川全体を良く見つけること、その川の特徴は何が、瀬と淵がどうして生まれたか、この川はどんな歴史



深い溪谷を一步一步踏みしめる子ども達

を刻んでいるかなど、源流がみんなにどんなメッセージを伝えたいのかをじっくり観察してほしい」と参加者に語りかけました。

続いて、参加者はたわ丸淵、釜の淵、のぞき淵、腫淵を見て回り、のぞき淵では、箱メガネを使って天然のヤマメを観察しました。

参加者から、「源流は足場が悪く大変でしたがV字谷の神秘的な美しさ、きれいな流れと苔むした巨木、川面にせり出した木枝の美しさがとても印象に残りました」「水の中にも入り歩くアドベンチャープランはなかなか体験できないので大変良かった」などたくさん感想が寄せられました。

「川の日」のイベントに参加

7月14・15日、東京都渋谷区国立オリンピック記念青年総合センターで行われた第10回「川の日」ワークショップに、源流研究所が参加し、「いい川」の部門に募集し、佐藤事務局長、井村主任研究員が「パートナーシップ」による多摩川源流研究所設立と題して発表。全国の仲間と交流しました。また、全国各地の素晴らしい川や、川づくりを知ることができました。

「源流学校指導者養成講座」を実施

研究所では源流学校として、自然体験の少ない都会の親子や市民を対象とした源流体験教室を実施しています。その中で活躍していた指導者の養成を目的に、4月11日から6月20日まで全9回の講座を行いました。この指導者養成講座には、村民延べ百十八人が参加しました。講師は研究所の運営委員でもあるアースマンシップ自然環境教育センターの岡田淳先生です。

地元住民のべ百十八人熱心に受講

源流学校では、実体験の少ない現代の子ども達に強い衝撃を与えるであろう源流との出会いを提供したいと考えています。

この源流体験教室などを実施するにあたり、その運営に関わる指導者の役割は大変重要で、

基本的な安全確保はもちろんのこと、体験教室の参加者達になにを得てほしいのか、参加者自身からどんなことを引き出すお手伝いができるのか、ということとは、よいプログラム設定のほか指導者の力量にかかっているからです。

今年、研究所が小菅村を中心にモデル事業を行っているため、小菅村民を中心に指導者養成を行いました。地域住民がその地域環境に関しての案内をす

ることは、参加者にとっても、住民にとっても意味あることです。

第一回目（四月十一日）の講座では、開校式とあわせて、総論として、源流学校の目的・講



火を囲み火の力を学ぶ参加者（4月14日）

新鮮で有意義な実習

座の目的を中心に岡田先生と多摩川センター副代表の山道省三さんからお話がありました。



第三回目（四月十四日）は、小菅村内の雑木林をフィールドに火の使い方と野外での料理を中心とした野外実習が行われました。

まず初めに、「自然域に入るときに心がまえがある」ということを岡田先生が話され始め、受講者はそれまで意識したことがなかったことだけに、静かに話を聞いていました。受講後の感想には、「猟銃は狩猟をやっている、自然の中に入る機会がある方だが、自然を受け取るという気持ちで林に入るといった岡田先生の言葉を聞いてから入ったら、自然の方が語りかけてくるように感じた」というものも



野外トレッキング（4月14日）

多くありました。

また、薪割りや火燃しの指導の仕方について実習した後、みんな火を囲みつつ、岡田先生の話を伺いました。火を燃やすことには神聖な意味もあることや、火を囲むことが与える精神的な影響について教えていただき、受講者自身がそれを実感していました。

受講者は、「この場所で長時間過ごすのは無理だと思ったが、あつという間に時間が過ぎ、とても楽しかった」「視点を覚えることで風向きや枝ゆれの変化を感じることができた」という感想がでていました。

広いフィールドでなくても、狭いフィールドでじっくりその場所

世界の流れを学ぶ

を知るこの大切さを学び、新鮮で有意義な実習でした。

第三回目（四月十八日）には、自然体験の目的と指導、実習の服装と装備について実習をしました。受講者の中には、狩猟やキノコ、山菜採りなどで山へ普段から入っている人も何人かいたため、服装や装備もイメージを持ちやすかったようです。

第四回目（五月九日）には、講義形式で、「共生」「エコロジー」「自然保護」「生物の多様性」「持続可能な循環型社会」などを学びました。この講義には、源流研究所の事業や体験教室を世界的な自然保護活動や環境教育の動きのひとつとして捉えてほしいという、岡田先生の期待が込められていたように思います。

第五回目（五月十六日）は、安全確保に関して、地元の消防職員から地域の中の事故その他の現状を踏まえ、講義をしていただきました。その後、三角巾を用いる救急法の実習を行い、実際の事故に遭遇した場合をイメージしつつ、受講者は真剣に練習を繰り返していました。

（六回目からは次号で）